

会報

公益財団法人 古紙再生促進センター



第44巻第2号

4

2018

- ◆平成30年度 事業計画および収支予算
- ◆紙リサイクル出前授業の下半期実施結果
- ◆全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2017表彰式
- ◆集団回収特別活動表彰式



目 次

理事会報告

- ・平成30年度 事業計画および収支予算 1

活動報告

出前授業

- ・紙リサイクル出前授業の下半期実施結果 6
- ・紙リサイクル出前授業の下半期実施結果（センター会員実施） 8

本部

- ・全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2017表彰式 9
- ・集団回収特別活動表彰式 15

九州地区委員会

- ・古紙リサイクルバスツアー実施報告 17

海外情報

- ・第十七回 夏先生のチャイナレポート 18
- ・台湾造紙工業統計2016 20

センター日誌

.....24

(表紙)

全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2017

ポスター小学生低学年部門 金賞作品

札幌市立山鼻小学校3年 大井 佑馬

タイトル「生まれ変わろう！紙」

平成 30 年度 事業計画

公益財団法人古紙再生促進センターは、環境負荷低減と経済合理性が伴った適正かつ効率的な紙リサイクルを促進し、地球環境の保全、経済の健全なる発展及び循環型社会の形成に貢献し、公益の増進に資することが使命であり、そのために、古紙品質安定対策事業、広報事業、調査研究事業及び紙の資源リサイクル安定化対策事業を実施してまいります。

我が国においては、紙リサイクルの基本は古紙品質の維持・向上であるとして、排出先における分別の強化・禁忌品の除去、流通段階での選別の徹底、古紙回収量・回収率と古紙消費量・利用率の向上を図る一方で、古紙の輸出を拡大してまいりました。

昨今の古紙を取り巻く状況は、次のとおりとなっています。

- わが国における古紙利用率目標は平成 32 年度までに 65% を達成することになっていきます。経済産業省は、紙のリサイクルを促進していくためには消費者、地方自治体、回収事業者や製造事業者等の幅広い関係者が一体となったりサイクルに取り組む必要があるとし、関係者に協力依頼がなされています。
- わが国では新聞発行部数の減少や ICT（情報通信技術）の進展により、新聞用紙や印刷・情報用紙の消費は停滞・減少の傾向を示し、紙器用板紙・衛生用紙、新聞用紙・印刷用紙向けの良質な古紙の確保が難しくなっています。
- 米国・欧州では紙・板紙の消費構造の変化による古紙品質の低下と古紙消費増に伴う輸出余力が減少しています。
- 中国では環境保護政策の強化に伴い、平成 30 年 1 月から未選別古紙（HS コード：4707900000）が輸入禁止となり、さらに同年 3 月から輸入ができる新聞古紙・段ボール古紙などの夾雑物許容含有率が 0.5% となっています。また、平成 32 年までに資源ごみの回収量について、平成 27 年と比べ約 1 億トン増の 3.5 億トンにする計画となっています。こうしたことから、我が国のみならず米国・欧州などの海外において古紙の需給と品質について、影響が顕在化してくるもの考えられます。

以上を踏まえ、平成 30 年度は古紙品質の維持・向上、紙ごみの資源化、安定的な紙リサイクルシステムの確保等の諸課題に対応すべく、次のとおり事業を拡充・強化してまいります。

- 古紙品質安定対策事業は、関東地区に限って実施していましたが『古紙品質情報ネットワークの運用』について全国に展開し、古紙品質の維持向上を図ります。『個別品質対策』について、地方自治体との連携を強化してまいります。
- 広報事業は、ホームページのリニューアルなどによる情報発信力を強化し、紙のリサイクルについての啓発・普及に一層努めます。特に『未利用古紙の掘り起こし・品質確保等の啓発』について、一層の推進を図ります。
- 調査研究事業は、未利用古紙の回収利用ネットワークを構築するため、新潟県においてオフィス古紙回収モデル事業を実施します。
中国をはじめ米国・欧州の古紙市場などの実態を把握するため、海外市場調査を行うとともに海外の紙リサイクル関係機関との情報交流を展開します。東南アジアについても海外市場調査を実施するため、その準備を進めます。
- 紙の資源リサイクル安定化対策事業は、中国の未選別古紙輸入禁止と輸入古紙の品質強化によるわが国の紙リサイクルシステムへの影響を把握するとともにその対策を推進します。

1. 古紙品質安定対策事業

(1) 古紙品質調査事業

古紙開梱組成調査を製紙メーカー協力のもと実施します。

(2) 古紙品質情報ネットワークの運用

古紙品質情報ネットワークを全国規模に拡大し、製紙工場での品質トラブル情報を他社他工場、古紙問屋へ伝達するとともに古紙品質に関する情報共有を図ります。

(3) 個別古紙品質対策

製紙原料に混入していると紙リサイクルができなくなる「昇華転写紙」、「感熱性発泡紙」、「ロウ引き段ボール」、「臭いのついた紙」の混入防止など、禁忌品対策を実施する。その際、地方自治体との連携を図ります。

2. 広報事業

(1) 紙リサイクル啓発事業

1) 紙リサイクル意見交換会

地方自治体との連携強化を目的に意見交換会等を実施します。

2) 紙リサイクル出前授業

小学校に出向きセンター作成の紙リサイクル副教材を活用し出前授業を行います。

3) 地域広報活動

各地域にて開催される紙リサイクルイベントへの参加など、紙リサイクルの啓発のための広報活動を実施します。

4) 紙リサイクル研修会

地方自治体等と連携し、集団回収実施団体関係者、古紙回収事業者等を対象に紙リサイクルに関する研修会を開催します。

5) 紙リサイクルセミナー

経済産業省を含む3R（リデュース・リユース・リサイクル）関係8省庁が毎年10月を3R推進月間と定めており、紙リサイクルの啓発を図るため、紙リサイクルセミナーを平成30年10月12日（金）に開催します。

6) 啓発資料等の配布

消費者向け、事業者向けに紙リサイクル啓発のためのリーフレット等の啓発資料、国内外の紙リサイクル関連情報を掲載した会報を業界関係者・自治体等に提供します。古紙ハンドブック2019の発行にむけて資料の収集・整理を行います。

7) 紙リサイクルコンテスト

全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2018を実施し、作文・ポスターの優秀作品を選定・表彰します。

8) 未利用古紙の掘り起こし・品質確保等の啓発

ホームページのリニューアルなどによる情報発信力を強化し、未利用古紙の掘り起こし・品質確保等の啓発を推進します。

(2) 紙リサイクル普及事業

1) 顕彰制度

① 集団回収実施団体に対し、感謝状を贈呈します。

② 紙リサイクル関連団体に対し、表彰状を贈呈します。

2) グリーンマーク

古紙利用製品の認識向上及び利用拡大を図るため、グリーンマークの普及に努めます。

3. 調査研究事業

(1) 国内資源化調査

1) 雑誌・雑がみ・オフィス古紙調査

雑誌、雑がみの排出・回収・利用の実態を調査分析します。

2) 地方自治体古紙関連施策調査

市区町村に対して、家庭から排出される古紙の分別排出の取組み、行政回収の取組み等の古紙関連施策について調査を実施するとともにこれまでの調査結果をとりまとめます。

3) 新技術に対応した紙リサイクル促進に関する調査研究

リサイクル対応型印刷資材の開発状況等の調査を実施し、デジタル印刷との関係深いインクジェット印刷物のリサイクル適性評価試験方法を検討します。

4) オフィス古紙回収モデル事業

未利用古紙の回収利用ネットワークを構築するため、新潟県においてオフィス古紙回収モデル事業を実施します。具体的には、商工会議所・商工会の協力を得て、古紙問屋・回収業者と連携し、事業所（オフィス）を対象とした資源化されずに「ごみ」として処理されている古紙を回収するモデル事業を実施します。

(2) 海外市場調査

中国における古紙市場などの実態を把握するため、情報・意見交換を行う日中古紙セミナーの開催等を行います。

中国の未選別古紙の輸入禁止等による米国・欧州の古紙市場変化など実態を把握するため、訪問調査を行うとともに米国・欧州の紙リサイクル関係機関との情報交流を展開します。

(3) 統計調査

国内外における古紙需給統計等を収集しまとめ、公表する。

4. 紙の資源リサイクル安定化対策事業

(1) 古紙余剰対策事業

1) 古紙余剰対策（備蓄事業）

紙リサイクルシステムを維持するため、必要に応じた対策を実施します。

2) 備蓄実施態勢の整備

備蓄事業を迅速に実施するため、備蓄手法、備蓄手順等の実施態勢を整備します。

(2) 紙の資源リサイクル安定化施策事業

1) 紙の資源リサイクル安定化施策の策定及び推進を図るため、海外における紙リサイクルの現状と紙リサイクル安定化施策等の調査を実施します。

2) 製紙原料以外の古紙用途に関する調査を実施します。

3) 中国の未選別古紙輸入禁止と輸入古紙の品質強化に伴うミックス古紙の余剰その他のわが国の紙リサイクルシステムへの影響を把握し、必要に応じてその対策を行います。

5. その他の事業（地区委員会活動事業）

全国8地域における委員会において、各地域の独自性を活かし、研修会（工場見学、講演会等）等の事業を実施します。

収支予算書

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)

(単位：円)

科 目	平成30年度予算	平成29年度予算	増 減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	3,000	10,000	△ 7,000
基本財産受取利息	3,000	10,000	△ 7,000
② 特定資産運用益	236,000	460,000	△ 224,000
運用財産受取利息	236,000	460,000	△ 224,000
③ 受取会費	244,540,000	240,250,000	4,290,000
賛助会員受取会費	244,540,000	240,250,000	4,290,000
④ 負担金収入	0	0	0
負担金収入	0	0	0
⑤ 事業収益	136,300,000	136,300,000	0
古紙品質安定対策事業収入	0	0	0
紙の資源リサイクル安定化対策事業収入	136,300,000	136,300,000	0
⑥ 受取寄付金	563,000	1,300,000	△ 737,000
受取寄付金	563,000	1,300,000	△ 737,000
⑦ 雑収益	300,000	350,000	△ 50,000
雑収入	300,000	350,000	△ 50,000
経常収益計	381,942,000	378,670,000	3,272,000
(2) 経常費用			
① 事業費	318,526,000	318,523,000	3,000
古紙品質安定対策事業費	5,974,000	6,016,000	△ 42,000
広報事業費	80,818,000	84,418,000	△ 3,600,000
調査研究事業費	81,682,000	80,279,000	1,403,000
紙の資源リサイクル安定化対策事業費	150,052,000	147,810,000	2,242,000
② その他事業費	28,645,000	28,912,000	△ 267,000
地区委員会活動事業費	28,645,000	28,912,000	△ 267,000
③ 管理費	30,920,000	29,377,000	1,543,000
役員報酬	1,053,000	1,053,000	0
給料手当	6,028,000	5,774,000	254,000
福利厚生費	905,000	782,000	123,000
役員退職慰労費用	114,000	114,000	0
退職給付費用	244,000	253,000	△ 9,000
会場費	147,000	129,000	18,000
広告料	120,000	120,000	0
シテム費	1,268,000	687,000	581,000
委託費	100,000	0	100,000
会議費	6,456,000	6,085,000	371,000
旅費交通費	4,584,000	4,507,000	77,000

科 目	平成 30 年度予算	平成 29 年度予算	増 減
通 信 運 搬 費	178,000	195,000	△ 17,000
減 価 償 却 費	94,000	112,000	△ 18,000
消 耗 品 費	159,000	186,000	△ 27,000
印 刷 製 本 費	15,000	14,000	1,000
新 聞 図 書 費	35,000	32,000	3,000
水 道 光 熱 費	113,000	103,000	10,000
賃 借 料	2,620,000	2,645,000	△ 25,000
諸 会 費	1,298,000	970,000	328,000
諸 謝 金	4,521,000	4,696,000	△ 175,000
租 税 公 課	20,000	5,000	15,000
支 払 手 数 料	508,000	575,000	△ 67,000
雑 費	340,000	340,000	0
経 常 費 用 計	378,091,000	376,812,000	1,279,000

科 目	平成 30 年度予算	平成 29 年度予算	増 減
当 期 経 常 増 減 額	3,851,000	1,858,000	1,993,000
当 期 経 常 外 増 減 額	0	0	0
当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	3,851,000	1,858,000	1,993,000
一 般 正 味 財 産 期 首 残 高	2,430,860,000	2,414,020,000	16,840,000
一 般 正 味 財 産 期 末 残 高	2,434,711,000	2,415,878,000	18,833,000
Ⅱ 指 定 正 味 財 産 増 減 の 部			
当 期 指 定 正 味 財 産 増 減 額	0	0	0
指 定 正 味 財 産 期 首 残 高	0	0	0
指 定 正 味 財 産 期 末 残 高	0	0	0
Ⅲ 正 味 財 産 期 末 残 高	2,434,711,000	2,415,878,000	18,833,000

紙リサイクル出前授業の下半期実施結果

センターでは小学生を対象として紙リサイクルに関する理解を深め、紙リサイクル体制の維持・発展に資することを目的とした「紙リサイクル出前授業」を全国で実施しています。

平成 29 年度は下半期 13 校で出前授業を実施し、年間を通して 45 校、2,654 名の児童に紙リサイクルの意義について伝えることが出来ました。

<北海道地区委員会>

北海道地区は北海道の 1 校で実施致しました。

実施日	実施校	クラス	講師
平成 29 年 11 月 15 日	札幌市立 札幌小学校	5 年生 (2 クラス)	(株)藤川紙業、(株)マテック、 北昭興業(株)、(株)丸升増田本店、 (株)古山商店、日本製紙木材(株)、 北海紙管(株)、王子山室古紙セン ター、栗原資材(株)



【講師の感想】

- ・児童から質問を受ける時間に不足を感じたため、今後学習内容の見直しを図り対話の時間を増やすことが必要であると感じました。

<東北地区委員会>

東北地区は宮城県の 1 校で実施致しました。

実施日	実施校	クラス	講師
平成 29 年 11 月 16 日	石巻市立石巻小学校	4 年生 (2 クラス)	(株)齋武商店

【講師の感想】

- ・児童から積極的に質問も出て、リサイクルへの理解は深まったと思います。広域行政組合の焼却炉を見学してから授業を行ったので、焼却処分とリサイクルの違いが対比できたと思います。

<静岡地区委員会>

静岡地区は静岡県の 5 校で実施致しました。

実施日	実施校	クラス	講師
平成 29 年 10 月 4 日	富士市立 田子浦小学校	4 年生 (5 クラス)	(株)丸元紙業、三和商工(株)、(株) 市川商店、(株)丸興佐野錦一商 店、(公財)古紙再生促進センター
10 月 13 日	富士市立 神戸小学校	4 年生 (1 クラス)	(株)丸元紙業、松岡紙業(株)、(株) アカツキ、(株)高野実業、(公財) 古紙再生促進センター
10 月 26 日	富士宮市立 貴船小学校	5 年生 (3 クラス)	(株)丸元紙業、(株)アカツキ、(株) 高野実業、(株)丸興佐野錦一商 店、(公財)古紙再生促進センター
11 月 14 日	富士市立 東小学校	4 年生 (1 クラス)	松岡紙業(株)、(株)丸元紙業、(株) 鈴剛、(公財)古紙再生促進センター
11 月 21 日	富士市立 原田小学校	5 年生 (2 クラス)	(株)丸元紙業、三和商工(株)、こ づか(株)、(株)二見、(公財)古紙 再生促進センター



【実施校からの感想】

- ・内容としてはとてもわかりやすく、学ぶことが多くて良かったです。

<中部地区委員会>

中部地区は愛知県で2校、三重県で1校実施致しました。

実施日	実施校	クラス	講師
平成29年 10月11日	名古屋市立大清水小学校	4年生(5クラス)	(株)宮崎
10月12日	鈴鹿市立明生小学校	4年生(2クラス)	北勢商事(株)
10月25日	名古屋市立平針南小学校	4年生(3クラス)	(株)石川マテリアル

【講師の感想】

- ・児童たちは積極的に授業に参加し、禁忌品のクイズでは、とても盛り上がり大合唱が起こっていたので、楽しんでもらえたと思います。
- ・児童たちから活発な意見が出て、終始和やかで、ときにはパワフルな展開もあり、児童たちにはリサイクルの授業として印象に残る感じがしました。

<中四国地区委員会>

中四国地区は香川県の2校で実施致しました。

実施日	実施校	クラス	講師
平成29年 12月6日	高松市立高松第一小学校 高松市立高松第一中学校	6年生(1クラス) 1年生(1クラス)	丸八商工(株)

【講師の感想】

- ・児童に持ってきてもらった牛乳パックを実際に計量し、ボールと比べたりしたのは、リアリティが増したようで、反応がよかったです。

<九州地区委員会>

九州地区は佐賀県の1校で実施致しました。

実施日	実施校	クラス	講師
平成29年 10月26日	武雄市立北方小学校	4年生(2クラス)	(株)イワフチ



【実施校からの感想】

- ・社会科でごみの学習をしていたことと、10月に入り環境の学習にはいていたことにより、出前授業の内容は児童の興味関心に合致するものでした。
- ・紙コップや紙皿がリサイクルできないことに驚き、「なぜ」という疑問を持つことができました。

紙リサイクル出前授業の下半期実施結果(センター会員実施)

紙リサイクル出前授業は、センター会員の皆様にも講師のご協力をいただき、啓発活動を行っています。センターとは別に会員企業が主体となって下半期に43の学校等で実施いたしましたので、ご紹介いたします。

実施日	都道府県	実施対象	講師
平成29年 10月4日	愛知県	名古屋市立しまだ小学校	明和製紙原料(株)
10月6日	岡山県	倉敷市立第二福田小学校	//
10月7日	岡山県	岡山城ロータリークラブ	//
10月11日	岡山県	岡山南支援学校	//
10月12日	大阪府	吹田市千里山・佐井寺図書館	//
10月12日	大阪府	豊中市集団回収登録団体講演会	//
10月12日	岡山県	岡山市立福島小学校	//
10月17日	岡山県	岡山市立御野小学校	//
10月19日	岡山県	玉野市立山田小学校、 後閑小学校(合同実施)	//
10月20日	岡山県	岡山市立福浜小学校	//
10月30日	大阪府	藤井寺市立藤井寺西小学校	//
10月30日	岡山県	岡山市立平井小学校	//
11月8日	岡山県	岡山県教育委員会主催 家庭科専攻生徒研修会	//
11月8日	東京都	荒川区立第三日暮里小学校	(株)大久保
11月10日	岡山県	岡山市立光南台中学校	明和製紙原料(株)
11月10日	岡山県	備前市立吉永小学校	//
11月14日	岡山県	岡山南ロータリークラブ主催 事業系紙ゴミ減量セミナー	//
11月15日	岡山県	岡山県立新見高校	//
11月15日	岡山県	岡山市立芳泉中学校(職場体験)	//
11月18日	東京都	関資連青年部東京大会	//
11月21日	岡山県	笠岡市環境衛生協議会	//
11月22日	香川県	高松市仏生山消費者団体協議会	//
11月22日	岡山県	(株)トンボ	//
12月1日	長崎県	長崎県平戸市教育委員会研修会	//
12月7日	岡山県	岡山市立江西小学校	//
12月17日	岡山県	倉敷市中原子供会	//
平成30年 1月13日	岡山県	岡山市新中野子供会	//
1月17日	兵庫県	尼崎市立尼崎北小学校	//
1月20日	岡山県	岡山市嶽町内会	//
1月24日	千葉県	柏市立第一小学校	//
1月26日	岡山県	岡山市環境局主催 ゴミ減量セミナー	//
2月10日	大阪府	豊中市庄内公民館親子環境講座	//
2月15日	東京都	葛飾区葛飾商業高校	//
2月24日	群馬県	日資連群馬県青年部	//
2月27日	長崎県	平戸市立田平北小学校	//
3月8日	東京都	荒川区立第三日暮里小学校	//
3月19日	愛知県	名古屋市立大清水小学校	//
3月23日	岡山県	ロイヤルガーデン丸の内	//
3月24日	岡山県	岡山市灘崎公民館	//
3月26日	岡山県	総社市環境衛生協議会	//
3月28日	岡山県	倉敷市環境局主催 親子環境セミナー	//
3月28日	岡山県	西大寺よつばのクローバー	//



【11月8日 (株)大久保で実施した出前授業の様子】

全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2017表彰式

「全国小中学生紙リサイクルコンテスト」は、全国の小中学生から紙リサイクルに関する活動やアイデアをテーマとした作文・ポスターを募集し、優秀な作品の作成者を表彰するもので、平成21年度から実施しています。

1月27日には都内のホテルに金賞・特別金賞受賞者を招き、表彰式を開催しました。主催者・後援者から賞状と記念楯、副賞を贈り、受賞者から喜びの声や作品の意図を聞きましたので、紹介します。

作文小学生部門金賞受賞者は、荒川区立第三日暮里小学校5年の越村惟叶さん。タイトルは「リサイクルは大切」。紙のリサイクルがごみの減量につながることや、分別をすることが必要であることを調べ、リサイクルに取り組む大切さを知ったと書いている。「これまで何かの賞を受賞したことがなかったので、うれしかった」と受賞の喜びを述べた。



作文中学生部門金賞受賞者は、宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校1年の大仁田健さん。タイトルは「リサイクルスペース」。誰もがリサイクルに参加しやすくなるアイデアとして、いつでもごみや資源物を排出できるリサイクルスペースの設置を提案している。「コンテストの募集をみて、身近なテーマを題材に作文を書きたいと思った」と応募のきっかけを述べた。

ポスター小学生低学年部門金賞受賞者は、札幌市立山鼻小学校3年の大井佑馬さん。タイトルは「生まれ変わろう！紙」。様々な古紙が紙として生まれ変わることを画用紙ではなく段ボールに描いたユニークな作品。「金賞を受賞したことを聞いた時は、すごくうれしかった」と受賞の喜びを述べた。

ポスター小学生高学年部門金賞受賞者は、絵画教室絵かきのたまご4年の斉藤亜衣香さん。タイトルは「紙のリサイクル」。人々が笑顔で資源回収を行う姿を描き、リサイクルの大切さを表現した作品。「資源の分別は大切だなと思いながら描きました」と作品の意図を述べた。

ポスター中学生部門金賞受賞者は、浜松市立南部中学校1年の金城カロリナさん。タイトルは「よく見れば資源はいっぱい」。集められた古紙が紙製品にリサイクルされる様子を鮮やかに表現した作品。「紙リサイクルについて誰が見てもわかりやすいように描いた。」と作品の意図を述べた。

全国製紙原料商工組合連合会理事長賞受賞者は、国語塾 KURU6年の山田隼さん。タイトルは「紙でできた家」。段ボールから作ったブロックを家の材料として使うことを書いている。「姉からはいつも変わったことばかり言っているとイわれるが、受賞したことを報告したい」と受賞の喜びを述べた。

日本再生資源事業協同組合連合会会長賞受賞者は、岩手県立一関第一高等学校附属中学校2年の小澤美咲さん。タイトルは「江戸の知恵に学ぶ」。江戸時代は貴重な資源として、紙がリサイクルされていたことを知り、現代でも江戸時代のように資源を大切にすることが大切であると書いている。「大江戸リサイクル事情という本を読み、作文を書きたいと思った」と応募の動機を述べた。

段ボールリサイクル協議会会長賞受賞者は、八戸市立小中野小学校6年の目時聖那さん。タイトルは「く～るくる！！地球のためにリサイクル！！」。地球の周りで古紙がリサイクルされている様子を描いた作品。「紙製品にひとつひとつマークを描く事がんばった」と作品のポイントを述べた。

全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2017入賞者一覧

【金賞】

応募総数：973点（応募校数：124校）

	部門	都道府県	学校名	学年	氏名	タイトル
作文	小学生部門	東京都	荒川区立第三日暮里小学校	5	越村 惟叶	リサイクルは大切
	中学生部門	宮崎県	宮崎県立宮崎西 高等学校附属中学校	1	大仁田 健	リサイクルスペース
ポスター	小学生低学年部門	北海道	札幌市立山鼻小学校	3	大井 佑馬	「生まれ変わろう！紙」
	小学生高学年部門	兵庫県	絵画教室 絵かきのたまご	4	斉藤 亜衣香	紙のリサイクル
	中学生部門	静岡県	浜松市立南部中学校	1	金城 カロリナ	よく見れば資源はいっぱい

【特別金賞】

	部門	都道府県	学校名	学年	氏名	タイトル
	全国製紙原料商工組合 連合会 理事長賞	東京都	国語塾 KURU	6	山田 隼	紙でできた家（作文）
	日本再生資源事業 協同組合連合会 会長賞	岩手県	岩手県立一関第一 高等学校附属中学校	2	小澤 美咲	江戸の知恵に学ぶ（作文）
	段ボールリサイクル 協議会 会長賞	青森県	八戸市立小中野小学校	6	目時 聖那	く～くる！！地球のために リサイクル！！（ポスター）

【銀賞】

	部門	都道府県	学校名	学年	氏名	タイトル
作文	小学生部門	香川県	高松市立栗林小学校	2	上之段 亜玖吏	みんなの力ががんばろう
	中学生部門	東京都	江戸川区立篠崎中学校	2	檀上 恋	これからの紙リサイクル
ポスター	小学生低学年部門	佐賀県	有田町立有田中部小学校	1	鷹巣 きよら	「かみリサイクルしてくれて ありがとう」へんしんできたよ
	小学生高学年部門	山口県	岩国市立灘小学校	4	古賀 万結	リサイクルを心がけよう
	中学生部門	静岡県	浜松市立南部中学校	3	島田 愛	捨てずに活かす紙リサイクル

【佳作】

	部門	都道府県	学校名	学年	氏名	タイトル
作文	小学生部門	福島県	福島市立福島第三小学校	6	遠藤 萌花	再生紙文房具自動販売機を作ろう
		東京都	東京創価小学校	5	大泉 陽子	新しいリサイクル
	中学生部門	京都府	京都市立伏見中学校	2	山田 創太	「紙リサイクル・ルールを 日本統一！！」
		広島県	銀河学院中学校	1	上川 楽々	「混ぜればゴミ、分ければ資源」
ポスター	小学生低学年部門	鹿児島県	霧島市立陵南小学校	3	中川 香花	紙たちにかんしゃをこめてリサイ クル
		徳島県	阿波市立一条小学校	1	西岡 成	すてずにリサイクル
	小学生高学年部門	兵庫県	絵画教室 絵かきのたまご	4	津田 和花奈	紙は大切に
		兵庫県	絵画教室 絵かきのたまご	4	鳥前 晴海	よんだ後はリサイクル
	中学生部門	山口県	岩国市立灘中学校	2	松富 穂香	地球の命のために…
		山口県	岩国市立灘中学校	2	藤田 珠羽	木からの大切なプレゼント

作文小学生部門 金賞

荒川区立第三日暮里小学校 5年 「思いのこもった紙のリサイクル」

わたしは、紙リサイクルの事について調べました。紙は、昔から暮らしに欠かせない物です。ふだん家で使っている紙、実は大昔に中国で発明された物です。使い終わった物、古紙は、大切な資源なのです。使い終わった紙は、分けずに捨てられるとゴミになってしまうけれどリサイクルすれば資源になります。新しい紙を作る原料になって、ゴミもへらせるとってもエコな取り組みです。だから、「紙を使った後は、リサイクルをする」という事を心がけることが大切です。わたしは、二つ気づいた事があります。

一つ目は、よく出るゴミは生ごみ、木材、ビン、カンだと思っていました。しかし、調べてみるとそうではなく、古紙だったのです。日本で使われている紙の原料は約60%以上が古紙だそうです。二つ目に気づいた事は、「リサイクルのために、みんなの家からも古紙を集めている」という事です。古紙回収車という車がみんなの家から古紙を集めて回っています。回収されている古紙は約80%以上もあり、そんな風にみんなが協力しているから、新しい紙を作ることが出来るという事がわたしはとても工夫されているなと思いました。

ちゃんと分別、それがリサイクルにつながります。紙のリサイクルは、とってまわりで、ビニールなどの紙以外の物がまざってしまうと、リサイクルが

できなくなるのできちんと分別するひつようがあるのです。

しかし、レシートや写真のようにリサイクル出来ない紙もあります。

集められた古紙は、種類によってリサイクルされる紙がちがいます。だから、ちゃんとリサイクルするためには分別しておくことが大切です。きちんと新聞の古紙からは、主に新聞、ダンボールの古紙からはダンボール、牛乳パックの古紙からは主にトイレトーパーが作られています。紙は木材から取り出されたせんいを重ね合わせて作られたものです。それをほぐしてキレイに洗えば何度も紙の原料として使えるのです。くり返し使われるとせんいはいたんできますが、約五回もリサイクルできるのです。

わたしがようち園のときは、おもちゃの箱やおかしの箱、空き箱などを捨てないでようち園に持って行ってみんなが工作などで遊ぶ時などに使っていました。

だから紙は昔からみんなの役にたっています。むやみに紙をリサイクルしないでゴミとして捨てたりするとよけいゴミがたくさん出てしまいます。だからリサイクルする事がとても大切だということが分かりました。

わたしは、これからもリサイクルできるように分別を心がけます。

作文中学生部門 金賞

宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校 1年 「リサイクルスペース」

紙リサイクルについて、買い方、使い方、捨て方、この三つを考えてみた。まずは、買い方だが、本当に必要なかどうかを判断し、品質も特別な場合以外はなるべく古紙を利用したものを買うことにしている。また、使い方だが、無駄のないように節約して使おうと努力しているつもりだ。最後に捨て方だが、たぶん、これが一番の問題となっているはずだ。ほくの周りの人たち、とくに小林市はごみの捨て方が細かくて難しいと悩んでいる人が多いと聞いている。小林市からは、四十五ページもある『ゴミ分別、虎の巻』が各家庭に配布されている。中身を見ると、写真付きで丁寧に書かれているが、正直、見れば見るほど心が重くなるのを感じる。きっと高齢者や小さな子どもたちを抱えている人、また、他の地域から転入してきた人にとってはかなりのストレスであろう。ほくが住んでいる地区では、紙リサイクルは週一回、段ボールなどは月一回で、それも朝の七時半までには出さなくてはいけないことになっている。前の晩に出すことは禁じられているので、もし、出しそびれると次の月まで待たないといけないのだ。おまけに、一個でも間違ったゴミが入っていると、ルール違反のシールが貼られ回収されず、ゴミ置き場にポツンと残されてしまう。ほくが思うに、ゴミを捨てる時間と場所、そして、ゴミ分

別の複雑さが問題なのである。いつでも捨てられて、かつ、捨てに行きやすい、雨をしのげて、駐車場もあるような場所だと有り難い。もちろん、衛生的なゴミ箱が設置されていて、リサイクル品のみではなく、捨てる時に迷わないように、全ての物にゴミ廃棄用マークがついていて、そのマークのゴミ箱に捨てるようになっている。そんな工夫がされていけば、誰でも、たぶん子どもたちや外国人でも簡単に捨てることができるであろう。最近では、二十四時間、何でも購入できるのに、捨てられるのは早朝のみというのはおかしいと思う。ゴミ捨てのストレスから解放されると、紙リサイクルは今よりもっと高品質になる上に、回収率もアップし、かかる費用も低減すると思う。では、そんな場所をどこに作るかということである。近頃は、廃校や使用されていない建物などをリメイクしたレストランやホテルなどを見かけるが、そんな風に、明るい開放感のあるリサイクルスペースとしてリメイクしてみてもどうだろう。広ければ、リサイクルショップやキッズ文庫なども併設し、廃品を利用してリデュースできるものは販売やレンタルすることもできるだろう。例えば、天気の良い日に、家族みんなで楽しくリサイクル活動をしたくなる、そんなリサイクルスペースを提案したい。



ポスター小学生低学年部門 金賞
札幌市立山鼻小学校 3年 大井 佑馬
「生まれ変わろう！紙」



ポスター小学生高学年部門 金賞
絵画教室 絵かきのたまご 4年 斉藤 亜衣香
「紙のリサイクル」

受賞するとは思っていませんでしたので、とてもびっくりしました。この絵は通っている絵画教室の先生にアドバイスをもらい、猫の番人を通して、紙リサイクルの大切さが伝わればいいな、と思い描きました。



ポスター中学生部門 金賞
 浜松市立南部中学校 1年 金城 カロリナ
 「よく見れば資源はいっぱい」

学校の資源物回収であつまってくる紙をみていると、資源になる紙はたさくさんあるんだな、と思いました。



段ボールリサイクル協議会 会長賞
 八戸市立小中野小学校 6年 目時 聖那
 「く～るくる!!地球のためにリサイクル!!」

地球もリサイクルもくるくる回っているところが同じだと思いました。
 自分が取り組んでいる小さなリサイクルでも地球のためになると思っかきました。

全国製紙原料商工組合連合会 理事長賞
国語塾 KURU6年 山田 隼 「紙でできた家」

多くの家の近くのごみ収集日はびん、カン、ペットボトル類は水曜日、紙・布類は木曜日です。木曜日の日にはダンボールが白いひもで結ばれて、置かれています。新聞も四つ折りにして白いひもで結ばれて置かれています。

平成26年度、新聞紙は1849370kgで24年とくらべて大幅に減っているのに段ボールは年々増加しています。通信販売が多くなったことが1つの原因です。24年から25年にかけて増えている傾向にあったが26年には少なくなっています。新聞と雑誌が減っている理由としてあげられるのは活字ばなれです。近頃スマートフォンで自分が必要とするニュースだけを見ることが可能になったので新聞や雑誌で情報を得る必要がないと考える人が増えていると考えられます。

谷川俊太郎の詩に
私たちは捨てるはがして捨てるめくって捨てるていねいに折り畳んで捨てる丸めて捨てるその行方も知らずに木々が身を粉にして恵んでくれた紙
というのがあります。

紙は木々が自分をぎせいになってぼくたちの元に来ていてくれるのです。ぼくはダンボールを木のように使える方法をさがしました。

その結果良い案が出ました。それはダンボールを粉末にしてブロックにします。ブロックにする時は米のりを使って固めます。ブロックを積んでいくさいには、にかわで接着します。

コンクリートブロックだと鉄柱を使いますがそのかわりに竹を中に入れます地震があったときは竹なのでしなつてひがいは最小ですみます。また水に弱いのが悪い点ですが番傘にぬる油をふきつければ水にも強くなります。ダンボールブロックは輸送などにも便利です。鉄やコンクリートだとクレーンをいちいち持ってこなくてはなりません木だと人の手で組み立てもできるので洪水や地震のひがいの仮設住宅にとてもよい材料です。

もしこのような家が立つことができるのなら、これは木々が自分をぎせいにしてくれてまでぼくたちのところへやってきてくれた木々への恩返しです。

「紙でできた家」を作ることがぼくの紙リサイクルです。

日本再生資源事業協同組合連合会 会長賞
岩手県立一関第一高等学校附属中学校2年 小澤 美咲 「江戸の知恵に学ぶ」

おもしろい本を読んだ。『大江戸リサイクル事情』（石川英輔／一九九七年／講談社文庫）という書籍だ。江戸時代の日本では、紙くずが町の中に落ちていたら、すぐに拾って売る紙くず拾いという職業があるほど、紙リサイクルを積極的に行っていたという。なぜ江戸時代はそんなにも紙リサイクルに積極的だったのだろうか。

江戸時代は、あらゆる物が貴重で、高価だった。それにひきかえ今は何でも欲しい物はすぐに手に入る。大量生産と物流の発展により、生活に必要なものも、さほど必要のないものも私たちの身のまわりにあふれている。これが今の時代だ。私たちは、物を大切にしようとする気持ちがうすれてしまっているのではないだろうか。例えばブランド品のバックは、いつまでもずっと大切に使うが、安いバックは流行のものをどんどん買い換えて、使い捨てにしてはいないか。

私の学校では、紙リサイクルを徹底して行っている。燃えるごみの中にプリントや小さなふせんが少しでも入っていると、校務技能員さんに注意されるほど厳しい。しかし、そのいらなくなった紙は、トイレットペーパーに交換されていることを先生から聞いて、リサイクルすることの大切さを改めて感じた。家では、紙ごみと燃えるごみを分別していないので、心がけて今日から生活していきたい。

このように、紙リサイクルは誰もが心がけて取り

組むことができ、すぐに実践できる簡単なことだと思ふ。

ちり紙、コピー用紙、印刷用紙など紙リサイクルをすることで新しく生まれ変わる製品が、私の身の周りにたくさんあることを知った。紙以外の分野でも古紙は利用され、生活に欠かせない物の多くが再生利用して作られている。紙リサイクルをすることで、資源を大切に使うことができることを知った。

道ばたに落ちていた紙まで専門業者が回収していた江戸時代からの伝統があるからこそ現在新聞や段ボールの古紙を回収するシステムができあがっている。今まで私はなせ紙リサイクルという仕組みがあるのかわからなかったが、昔から先達が築き上げたシステムを知ったことでわかった気がする。江戸時代よりも紙リサイクルが活発な世の中になってほしい。

しかし、江戸時代から四百年以上たった今江戸時代のような紙リサイクルの方法はできないと思う。だから、江戸時代とは違った方法で紙リサイクルを行えると思う。いらなくなった絵本の表紙を使ったバックを作ったりお菓子屋さんの包装紙をブックカバーにすれば、紙リサイクルに興味をもってくれると思う。また、今は高いものは大切に使うが、安いものはむだ使いしてしまいがちだ。たくさんの人に紙を大切にすることを覚えてもらうために紙の価格を上げるのも一考ではないか。

集団回収特別活動表彰式

—新潟県阿賀町立三郷小学校の集団回収活動—

平成 30 年 1 月 27 日、紙リサイクルコンテスト 2017 表彰式内で、集団回収の目的・意義が素晴らしい団体への集団回収特別活動賞を、新潟県阿賀町立三郷小学校に贈呈しました。



【集団回収特別活動賞 表彰の様子】

阿賀町立三郷小学校の古紙回収への取り組み

三郷小学校では東日本大震災のあった 2011 年から古紙回収で得た収益金で図書を購入し、被災した福島県の大野小学校・熊町小学校に寄贈する活動を行っています。

●集団回収の経緯…三郷小学校では東日本大震災で被災した人たちに対して、何か支援できることはないかと児童が話し合い、読書に力を入れていたこともあり図書を贈ることを決定しました。本は古紙回収で得た収益金で購入することにしました。

●三郷小学校と大野小学校・熊町小学校

〈三郷小学校〉

三郷小学校は 2005 年に津川町・鹿瀬町・三川村・上川村が合併して誕生した阿賀町にあり、現在全校児童約 30 名の学校です。

〈大野小学校・熊町小学校〉

大野小学校・熊町小学校は町民の約 95% が住居していた地域が東京電力福島第一原子力発電所の事故による帰還困難区域であり、多くの住民が会津若松市に避難（仮設住居に移住）しています。現在、大野小・熊町小は会津若松市の廃校を利用し、開校しています。

●集団回収の方法…総合的な学習の時間で東日本大震災や本を贈る意義を児童が理解したうえで、古紙の集団回収活動を行っています。まず、古紙回収の協力を呼びかける手作りのチラシを作成し、町内会の回覧板での呼びかけや、町の有線放送を使って協力をお願いしています。



【集団回収の様子】

古紙回収は440世帯を9地区に分けて行っており、全学年の児童が分担して住宅地図で訪問する家を確認した後、保護者や区長に車を出してもらいおこなっています。挨拶やお礼といった地域とのコミュニケーションは高学年の児童が低学年の児童へ指導し、回収時にはお揃いの絆Tシャツを着て各戸に訪問しています。



【お揃いのTシャツを着て集団回収を行う】

- 世界に一つだけの本…大野小学校・熊町小学校に贈る図書は児童が選び、図書にメッセージを書き込んでいます。2011年度から2017年度までに約700冊の図書を三郷小学校から贈呈し、図書を贈られた大野小学校・熊町小学校では、図書館の一角に三郷小学校ブースを設けています。
- 三郷小学校と大野小学校・熊町小学校の交流…三郷小学校と大野小学校・熊町小学校は集団回収の活動を通して交流が始まり、自然教室等で児童同士の交流を行っています。去年はアスレチックやおにごっこなどで遊び、交流を深めあいました。



【大野小学校・熊町小学校との交流】

終わりに

集団回収特別活動賞の表彰を受けた三郷小学校の取り組みは、東日本大震災で被災をした小学校のために、何ができるかを児童が自発的に考え、地域を巻き込んで古紙回収に取り組んだ素晴らしいものでした。

集団回収の収益金で大野小学校・熊町小学校に図書を寄贈するという目的から始まった取り組みですが、集団回収を通して学年を超えた児童のつながりや地域の人々・地元の企業とのつながりを再認識することとなり、被災地支援としての活動以上に意義のある取り組みになっているのではないかと感じます。

センターでは今後も集団回収の目的・意義が素晴らしい活動を行っている団体に対して特別活動賞を贈り、活動の力添えとなるよう表彰を継続してまいります。

古紙リサイクルバスツアー実施報告

九州地区委員会では、次世代を担う子どもたちへの環境教育として北九州市と協力し、古紙リサイクルバスツアーを実施しています。今年度は以下の小学校5校に参加いただきました。

学校名	実施日	人数	学年
鞘ヶ谷小学校（北九州市）	平成30年1月12日（金）	37名（生徒35名、引率2名）	5年生
赤崎小学校（北九州市）	平成30年1月17日（水）	34名（生徒32名、引率2名）	4年生
今町小学校（北九州市）	平成30年1月23日（火）	19名（生徒17名、引率2名）	4年生
小森江西小学校（北九州市）	平成30年1月24日（水）	21名（生徒19名、引率2名）	4年生
白野江小学校（北九州市）	平成30年2月6日（火）	17名（生徒15名、引率2名）	4年生

紙がリサイクルされる過程を1日かけて学びました。

時刻	内容
9:00～	●古紙回収用保管庫見学（市民センター） 古紙が家庭からどのような形で持ち込まれているか、出し方の注意点などを市民センターの館長から説明。
9:40～	●古紙ヤードの施設見学（日本資源流通株式会社） 集められた古紙が選別される様子やベールの見学、出荷先やリサイクルに適さない「禁忌品の説明」。
11:00～	●トイレットペーパー工場施設見学（九州製紙株式会社） 回収された古紙を原料としてトイレットペーパーに再生されている製造工程ラインの見学と説明。
12:30～	●見学・体験学習（環境ミュージアム） 使用後の牛乳パックを使った紙すき体験と施設見学。



参加した児童からは、「手作業で古紙を分別していて驚いた。」「リサイクルで新しい製品に生まれ変わるには、たくさんの手間がかかることがわかった。」といった感想があり、学習を通して紙リサイクルへの理解が深まったようでした。

後日学校を經由して行った保護者へのアンケートでは「大人になってからもリサイクルの事で分からない事がたくさんあり、子供に教えてもらえて良かったです。」「古紙回収もただ出せばいいというわけではなく、分別がちゃんとされていないと、人の手作業でさらに分別をしないといけないので、分別の仕方をもう一度確認し直そうと思いました。」といった感想があり、子どもの学習を通して家庭にも紙リサイクルの大切さが伝えられる活動となりました。また、「資源の少ない日本はリサイクルすることで資源を生み出し、有効活用していくことが大切な事だと思います。」「古紙は予想以上に大切な資源だとわかりました。この学習を通して、これまで以上に古紙のリサイクル活動を頑張っていきたいと思います。」という感想も聞かれ、身のまわりの資源を有効利用することを家族で学ぶことにも繋がったと思います。

第十七回 夏先生のチャイナレポート

中国の固体廃棄物輸入管理制度改革、即ち海外ゴミの輸入禁止について

始めに

1980年代（即ち改革開放後）原料不足を緩和するため、中国は海外から原料とする固体廃棄物を輸入し始めた。最初は問題が少なかったが、その後状況は段々変わっていった。海外からの固体廃棄物輸入増加に伴い、比較的良いリスク管理システムを制定し、各地方政府及び関係部門が輸入固体廃棄物に対して監督管理を強化した。しかし、ある地方は依然として発展だけを重視し、環境保護を無視している。そして、一部の企業は不法利益を獲得するため、海外ゴミを密輸し、国民の健康や生態環境安全を脅かしている。

国民の健康と生態環境安全を守るため、2017年7月18日に国務院より「海外ゴミ」の輸入禁止、固体廃棄物輸入管理実施案が各省管轄市人民政府、関係各省に通知された。同日、環境保護部はWTOに対し2017年末に4種類24品目の海外ゴミの輸入禁止について通報した。

(1) 指導思想（目的）

全面的に中国共産党第18回党大会精神を貫徹し、習近平総書記の一連の重要談話内容（治国理論の新理念、新思想、新戦略）を勉強し、真剣に党中央国務院の決定方策を実行する。そして、「五位一体」（経済建設、政治建設、文化建設、社会建設、生態文明建設）及び「四つの全面」（全面的に小康社会達成、全面的に改革深化、全面的に法律より治国、全面的に厳しく治党）を推進する。

その上、断固としてイノベーション（創新）、協調、グリーン、開放、共に享受という発展理念を樹立し、実行する。また、国民を中心にして安定発展し、発展の質量や効率を重視する。供給側の構造的改革を主軸とし、改革深化を原動力とする。全面的に外国ゴミの入国を禁止する。固体廃棄物輸入管理制度を完璧にする。着実に固体廃棄物の回収利用管理を強化し、大いに循環経済を発展し、着実に環境質量を改善する。国家の生態環境安全や国民の健康を守る。

1) 基本原則（概要）

根本から退治し、輸入固体廃棄物管理政策を調整し、より良くする。持続的に厳しく外国ゴミの密輸を取り締まり、国内固体廃棄物の回収利用水準を高める。

安定推進、分類施策を堅持する。環境リスクや産業の発展現状という要素に基づいて業界別、種類別に分けて輸入禁止のスケジュールを制定する。輸入固体廃棄物管理目録を調整し、法律や経済、行政手段を結びつけて、大幅に輸入固体廃棄物の種類及び数量を減少し、全面的に外国ゴミの輸入を禁止する。

2) 主要目標

固体廃棄物の輸入管理を厳格に管理する。2017年末に、全面的に危害の大きい固体廃棄物の輸入を禁止する。そして、2019年末に国内資源が代替できる固体廃棄物の輸入を停止する。また、持続的に固体廃棄物の輸入、輸送、利用などの管理監督を通じて、生態環境の安全を確保する。断固として外国ゴミの密輸に打撃を与え、徹底的に外国ゴミの入国を拒む。資源節約、集約利用を強化し、全面的に国内の固体廃棄物の無害化、資源化の利用水準を高める。国内資源の足りない部分を補って美しい中国、そして全面的に小康社会建設を保障する。

(2) 断固として外国ゴミの輸入管理監督制度を実施する

1) 危害の大きい固体廃棄物の輸入を禁止する。2017年7月末に輸入固体廃棄物の管理目録を調整し、2017年末に生活用プラスチック、分類していない古紙及び紡績廃棄物、バナジウム滓^{かす}などの輸入を禁止する。

2) 固体廃棄物の輸入種類や数量を順次減少する。輸入固体廃棄物の管理目録を何回かに分けて、分類調整する。

3) 固体廃棄物の輸入許可証及び基準を厳しくし、〈原料として利用可能固体廃棄物輸入環境保護抑制基準〉を修正し、混入物の抑制基準を厳しくする（2017年末に完成する）。〈輸入古紙環境保護管理規定〉を印刷し配布、輸入古紙の加工利用規模を高める。

4) 関係制度をより良くし、〈固体廃棄物輸入管理〉を修正し、輸入港を指定し、固体廃棄物輸入港の数量を減らす(2018年末に完成)。固体廃棄物の輸入許可証制度を実施し、貿易会社の輸入代理を廃止する。そして、鑑別部門を増加し、鑑別困難という状況を改善する。

適時に〈中華人民共和国固体廃棄物汚染環境防治法〉等の法律、法規を修正し、外国ゴミの密輸、固体廃棄物の非法輸入等の違法行為に対する処罰基準を高める(2019年末に完成)。

(3) 外国ゴミの非法入国管理抑制を強化する

総合的に既存の政策措置を利用して、業界転換や産業構造をより良くし、関係の従業者の再就職を保障する(2020年末に完成)。

1) 持続的厳格に外国ゴミの密輸に打撃を与える。外国ゴミの密輸打撃を海関(税関)の日常業務の重点中の重点とする。厳格に危険廃棄物の密輸、医療廃棄物、電子廃棄物、生活ゴミ等の違法行為を処罰する。長期的に各種専門的な密輸打撃行動を実施し、特に海上や沿海、沿国境、非通関地域の密輸打撃に力を入れる。断固として、法律により返却するか、或いは焼き捨てる。重点的に外国ゴミの密輸やプラスチック、古紙、生活ゴミ、電子廃棄物、中古(使い古された)衣服などの固体廃棄物の各種類違法行為に打撃を与える。また、プラスチックの輸入及び加工利用企業に対して、重点的に許可証の転売や貨物置場の転売を査察し、企業の資質を問わず問題を取り調べる。

2) 全過程の監督管理に力を入れる。厳格に個体廃棄物の輸入申告を査察し、輸入許可証の発行や輸入数量を減らす。輸入固体廃棄物は運送前の現場検査後証書を発行する。要するに、船積み前にコンテナを開けて検査しなければならない。即ち、三つの「100%」(100%レントゲン(X線)検査、レントゲン設備のない所はコンテナを開けて100%検査、100%台秤にかける)という規定を着実に実施する。

3) 全面的に固体廃棄物集散地を整理整頓する。全国的にプラスチックや中古衣服、電子廃棄物の置き場集散地を整理整頓する。〈土壤污染防治行動計画〉を貫徹し、関係地方政府に電子廃棄物、中古タイヤ、プラスチック等の再生利用に対して整理整頓するように督促する。

(4) 外国ゴミの入国禁止システムを長期化する

企業主体の責任制を実施する。日常の監督

管理、外国ゴミの密輸、非法固体廃棄物輸入、転売或いは非法加工利用固体廃棄物等の違法犯罪行為の取り締まりに力を入れる。法治宣伝や訓練を強化し、企業の法律遵守意識を高める。法律を守らない企業リストを全国信用プラットフォーム、即ち「信用中国」網(ネット)に載せて公開する。

国際協力システムを打ち立てる。ベトナム等のアセアン諸国と外国ゴミ密輸反対協力システムをつくり、適時に地域的法律に従って共同行動する。要するに、国際ルートを利用して、外国ゴミ源の情報を発見し対応する。世界税関機構、国際刑事警察機構、国連環境計画と協力して、より良い外国ゴミの返却の国際協力システムを築き上げる。

(5) 国内固体廃棄物の回収利用率を高める

1) 国内固体廃棄物の回収利用システム建設速度を速め、生産者の責任制を追究し、都会や農村の生活ゴミ分類を推進し、国内固体廃棄物の回収利用率を高める。2020年末までに国内固体廃棄物の回収量を2015年の2.46億トンから3.5億トンに高める。

2) 国内固体廃棄物の加工利用産業発展を規範化し、「都市鉱山」という模範基地、資源再生利用模範モデル、循環経済模範区等牽引役割、回収利用中堅企業の手本役割を發揮し、再生資源回収利用基礎施設をより良くし、国内固体廃棄物加工利用工業団地を建設し、規範化、清潔化発展を促進する。

3) 科学技術の開発に力を入れる。固体廃棄物資源化利用設備の技術水準や廃棄電子製品、中古車解体利用水準を高める。企業は科学技術研究院や大学研究部門と連携して、非木材繊維製紙技術設備を研究開発し、産業化を励ます。重点的に竹、芦、サトウキビ、麦藁、稲わら等の非木繊維の応用技術を高める。

終わりに

GDP総額から見れば、中国は世界第二位の経済大国であるが、依然として世界最大の発展途上国である。国民全体の生態環境保護意識や、生活ゴミ分類意識、グリーン消費意識、節約意識等はまだ薄い。

今後、固体廃棄物輸入管理と外国ゴミ密輸打撃成果の宣伝に力を入れると共に、小学校教育から環境保護の重要性を宣伝し、紙製品の使用やプラスチックの使用を減少し、節約型の社会建設に貢献するように呼びかけている。

台湾造紙工業統計 (2016)

台湾造紙工業統計 2017 年版より、2016 年までの台湾製紙産業の状況を紹介します。

台湾の製紙産業の概況

2016 年の台湾の製紙産業は世界経済の上昇の恩恵を受け成長した。しかしながら、台湾の全体的な消費の伸びに対して国内需要は膨らんでおらず、製紙産業の輸出実績の伸びは国内販売を上回った。2016 年の台湾の紙・板紙生産量は 3,938 千トンで、前年比 2.1% 増加した。

紙の生産は 928 千トン（前年比 7.1% 減）で、紙・板紙全体の 23.6% を占めた。板紙は 3,010 千トン（前年比 5.3% 増）で、全体の 76.4% を占めた。著しい減少を示した印刷・情報用紙などを含む様々な紙製品は、前年比 13.2% 減少した。また、産業用紙は前年比 8.5% 増加し、白板紙は前年比 6.3% 減少し、衛生用紙は前年比 2.9% 増加した。

紙・板紙販売量は 3,935 千トン（前年比 2.5% 増）で、国内出荷量は 2,682 千トン（前年比 2.6% 減）、輸出量は 1,253 千トン（前年比 15.2% 増）であった。輸出のうち、紙は前年比 5.9% 減少し、板紙は前年比 21.0% 増加した。

紙・板紙輸入量は 1,524 千トン（前年比 1.8% 増）で、紙は 1,097 千トン（前年比 1.4% 増）、板紙は 427 千トン（前年比 3.0% 増）であった。

紙・板紙消費量は 4,208 千トン（前年比 1.4% 減）で、紙は 1,805 千トン（前年比 2.3% 減）、板紙は 2,404 千トン（前年比 0.7% 減）であった。一人当たりの年間紙・板紙消費量は 178.8kg であった。

製紙用繊維原料の需給は、パルプ生産量は 319 千トン（前年比 15.9% 減）、パルプ輸入量は 685 千トン（前年比 11% 増）であった。輸入パルプは、パルプ消費量の 70.9% を占めた。古紙消費量は 3,589 千トンで、このうち、国内回収古紙分は 2,880 千トン（前年比 1.7% 減）で、古紙消費量全体の 80.2% を占めた。また、古紙輸入量は 709 千トン（前年比 29.0% 増）で、古紙消費量全体の 19.8% を占めた。

古紙回収率は 71.2% で、国際算出法による古紙利用率（注）は 91.1% であった。

台湾の製紙産業の継続的な努力は、廃棄物を再生可能な資源としてリサイクルすることで環境に大きく貢献している。

表 1 紙・板紙生産、輸出入、消費量推移

(単位：トン)

年	紙・板紙生産量	紙生産量	板紙生産量	輸出量	輸入量	国内消費量
1970	410,227	214,577	195,650	19,775	34,282	424,734
1980	1,479,296	492,473	986,823	154,347	89,445	1,414,394
1990	3,336,814	828,026	2,508,788	552,148	587,795	3,372,461
2000	4,494,156	1,260,292	3,233,864	781,445	1,390,947	5,103,658
2007	4,706,595	1,300,079	3,406,516	1,482,039	1,450,069	4,674,625
2008	4,142,683	1,233,063	2,909,620	1,221,512	1,485,439	4,406,610
2009	3,988,478	1,213,166	2,775,312	1,375,975	1,278,971	3,891,474
2010	4,069,074	1,218,695	2,850,379	1,202,393	1,505,121	4,371,802
2011	4,138,505	1,207,441	2,931,064	1,262,841	1,548,095	4,423,759
2012	4,229,391	1,155,817	3,073,574	1,368,739	1,543,896	4,404,548
2013	4,155,831	1,100,890	3,054,941	1,358,023	1,531,498	4,329,306
2014	4,178,449	1,094,969	3,083,480	1,342,342	1,541,572	4,377,679
2015	3,857,639	998,658	2,858,981	1,088,135	1,497,364	4,266,868
2016	3,937,591	928,089	3,009,502	1,253,320	1,524,118	4,208,389

(注) 国内消費量 = 紙・板紙生産量 - 輸出量 + 輸入量

注 1) 国際算出法による古紙利用率 = 古紙消費量 / 紙・板紙生産量

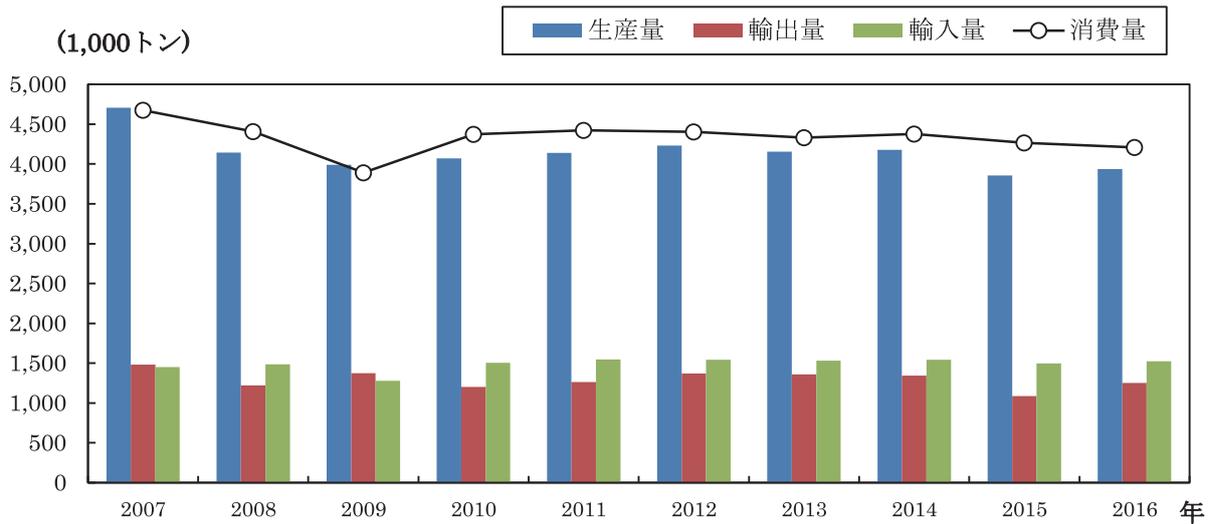


図1 紙・板紙生産、輸出入、国内消費量推移

表2 古紙輸出入、国内回収古紙、古紙消費量推移

(単位: トン)

年	古紙輸入量 (地域別) (注1)				国内回収古紙量 (注2)	古紙輸出量	古紙消費量 (注3)
	北米	日本	その他	合計			
1990	1,209,025	197	110,521	1,319,743	2,083,000		3,402,743
2000	508,066	108,265 (注4)	420,295	1,036,626	2,944,000		3,980,626
2007	342,074	190,417	451,560	984,051	3,158,000	40,369	4,142,051
2008	281,768	100,902	397,901	780,571	2,768,000	15,086	3,548,571
2009	286,720	117,565	173,463	577,748	2,865,000	44,007	3,442,748
2010	290,305	123,375	148,727	562,407	2,921,000	63,674	3,483,407
2011	294,053	181,069	125,921	601,043	2,941,000	65,511	3,542,043
2012	317,924	241,758	271,194	830,876	2,890,000	71,230	3,720,876
2013	301,733	292,811	176,414	770,958	2,970,000	65,786	3,740,958
2014	302,129	319,596	140,695	762,420	3,010,000	81,884	3,772,420
2015	253,022	218,558	77,883	549,463	2,930,000	106,416	3,479,463
2016	275,145	239,979	193,685	708,809	2,880,000	116,997	3,588,809

(注1) 2016年版から古紙輸入量地域は、これまでの「北米、欧州、その他」から「北米、日本、その他」に変更された

(注2) 国内回収古紙量は、国内で回収した古紙のうち国内製紙メーカーが購入した量

(注3) 古紙消費量=古紙輸入量+国内回収古紙量

(注4) 2000年の日本からの古紙輸入量について記載が無かったため、日本の財務省「貿易統計」を反映させた

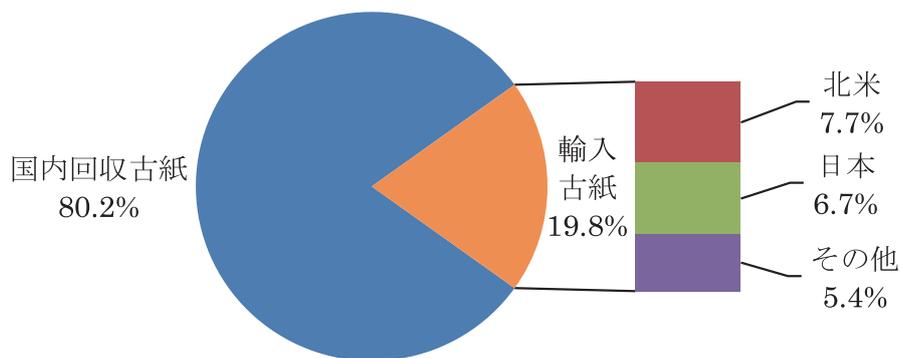


図2 2016年古紙消費構成比率

表 3 古紙輸入分類統計

(単位：トン)

年	段ボール類	クラフト紙類	脱インキ類	パルプ代替	新聞・雑誌類	その他	合計
1990	544,233	127,052	101,946	11,955	317,478	217,079	1,319,743
2000	593,397	57,471	31,749	11,626	127,290	215,093	1,036,626
2007	896,110	37,348	21,152	4,897	4,020	20,524	984,051
2008	664,185	30,421	18,613	2,989	3,637	60,726	780,571
2009	508,844	23,906	17,393	3,184	3,096	21,325	577,748
2010	484,001	21,357	14,057	3,208	8,156	31,628	562,407
2011	546,419	15,163	11,042	6,797	5,973	15,649	601,043
2012	769,797	19,133	10,011	2,725	12,632	16,578	830,876
2013	698,920	19,886	7,966	7,826	17,946	18,414	770,958
2014	716,456	16,158	5,140	3,699	9,793	11,174	762,420
2015	538,101	9,174	373	868	0	947	549,463
2016	690,029	4,834	2,655	1,531	2,708	7,052	708,809

(注) 「その他」には、雑紙、ボール等を含む

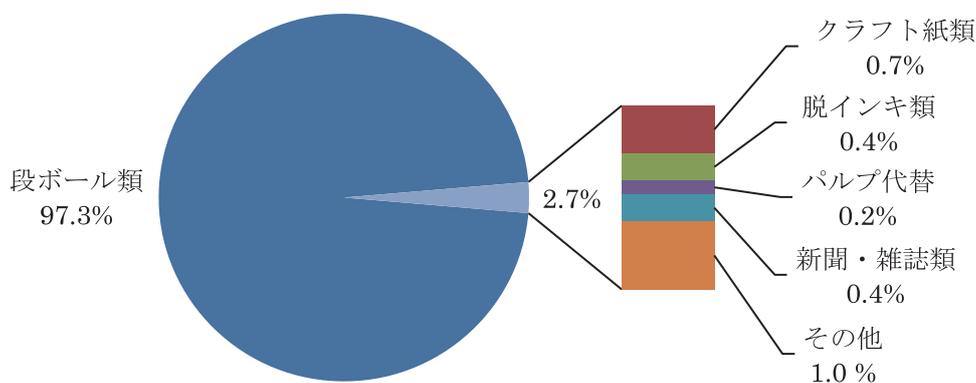


図 3 2016年古紙輸入分類比率

表 4 古紙回収率、利用率推移

(単位：トン、%)

年	紙・板紙消費量 (a)	国内回収古紙量 (b)	古紙パルプ消費量 (c)	パルプ消費量 (d)	古紙回収率 [(b) + 古紙輸出量] / (a)	古紙利用率 (c) / [(c) + (d)]
1990	3,372,461	2,083,000	2,778,324	750,207	61.8	78.7
2000	5,103,658	2,944,000	3,236,813	1,175,318	57.7	73.4
2007	4,674,625	3,158,000	3,411,999	1,164,884	68.4	74.5
2008	4,406,610	2,768,000	2,916,825	1,087,090	63.2	72.8
2009	3,891,474	2,865,000	2,811,670	1,022,776	74.8	73.3
2010	4,371,802	2,921,000	2,842,586	1,071,822	68.3	72.6
2011	4,423,759	2,941,000	2,893,671	1,101,408	68.0	72.4
2012	4,404,548	2,890,000	3,059,158	1,053,369	67.2	74.4
2013	4,329,306	2,970,000	3,067,320	983,745	70.1	75.7
2014	4,377,679	3,010,000	3,086,485	990,060	70.6	75.7
2015	4,266,868	2,930,000	2,834,630	933,271	71.2	75.2
2016	4,208,389	2,880,000	2,920,355	966,468	71.2	75.1

(注) パルプ消費量には溶解用パルプを含まない

国内回収古紙量は、国内で回収した古紙のうち国内製紙メーカーが購入した量

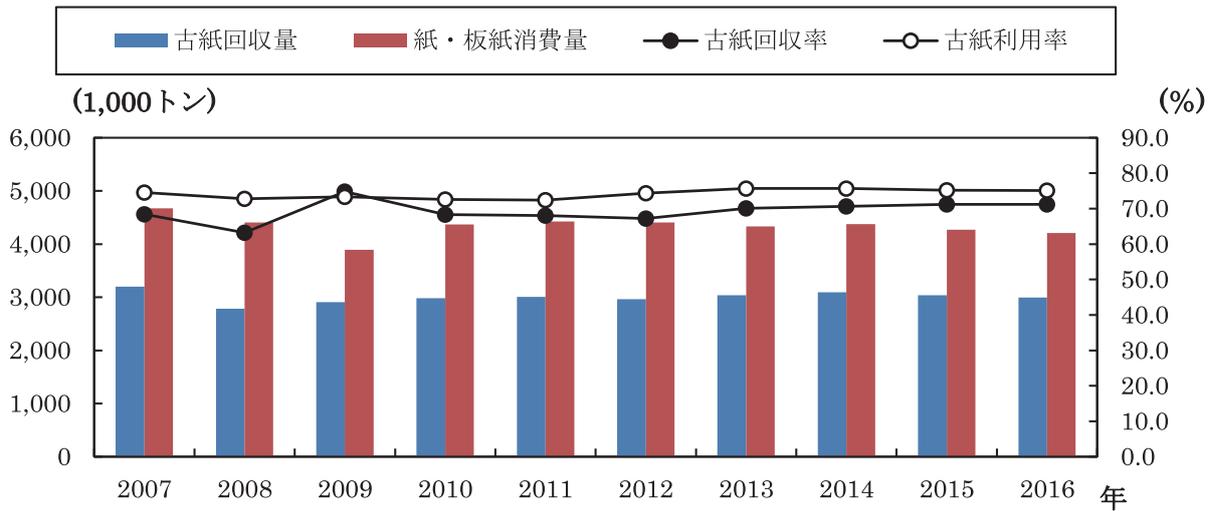


図4 紙・板紙消費量、古紙回収量、古紙回収率、利用率推移

(注) 古紙回収量=国内回収古紙量+古紙輸出量

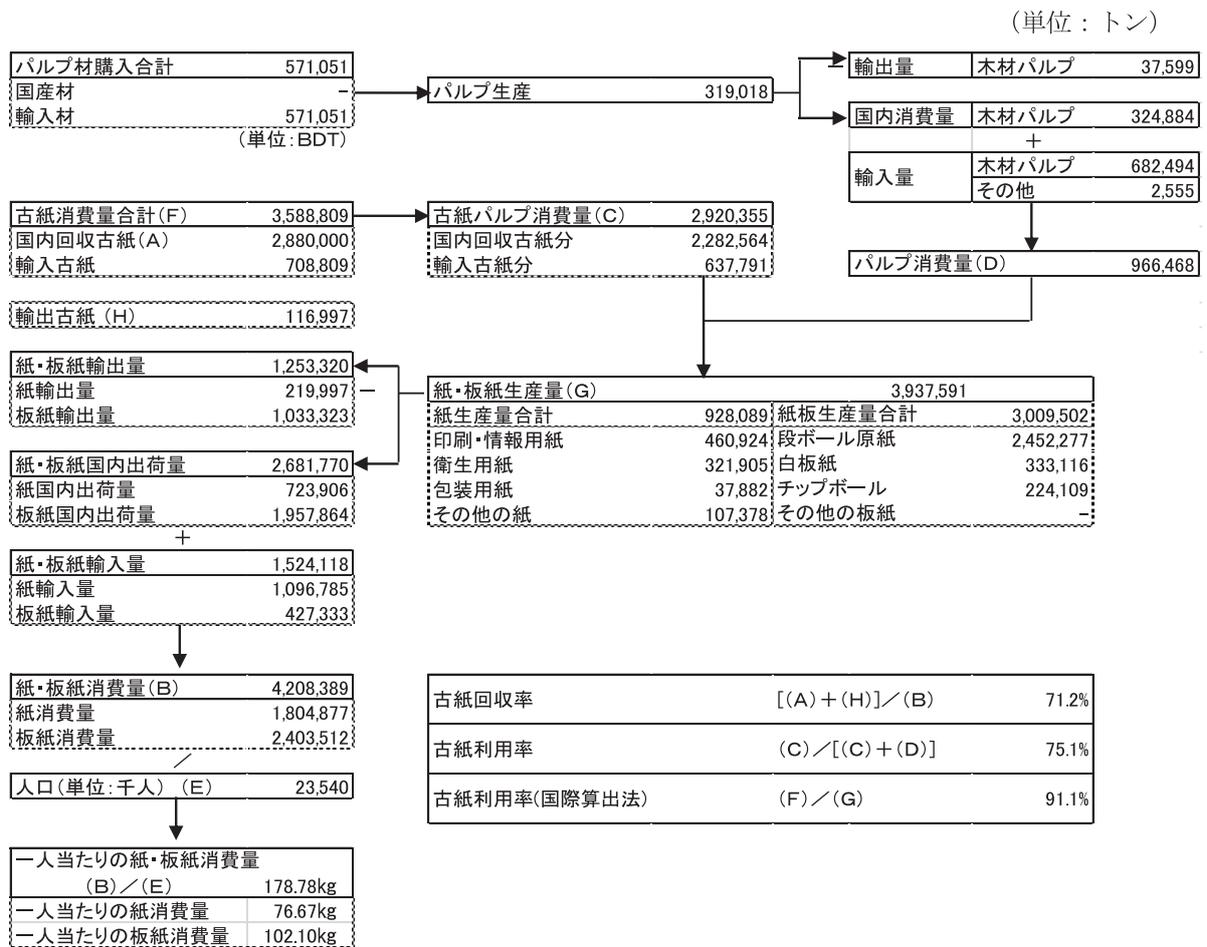


図5 台湾製紙工業統計2016年 生産消費一覧表

月 日	会 議 名	主 要 議 題
12月6日(水)	新潟分会	①会議(新潟分会事業について) ②集団回収実施団体感謝状贈呈式 ③その他
12月7日(木)	中・四国地区委員会	①古紙需給動向について ②その他
12月8日(金)	輸出委員会	①古紙需給の現状及び見通しに関する情報交換 ②古紙の品質に関する情報交換 ③その他
	東北地区委員会	①業務委員会報告 ・各地区の古紙需給動向について ・「全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2017」表彰式の案内 ・第6回日中古紙セミナー(中国訪問報告)について ・中国未選別古紙輸入禁止について ②関東地区委員会報告 ③古紙需給動向について ④その他
12月14日(木)	九州地区委員会	①古紙需給動向について ②出前授業の実施報告 ③紙リサイクルバスツアーの実実施計画について ④紙リサイクル研修会の予定について ⑤平成29年度研修会について ⑥平成30年度集団回収感謝状贈呈について ⑦中国未選別古紙輸入禁止について ⑧紙リサイクルコンテスト2017について ⑨その他
12月15日(金)	中部地区委員会 東海分会	①古紙需給動向について ②「禁忌品を含む雑がみ」の呼称変更について ③業務委員会議事要旨 ・日中古紙セミナー ・中国未選別古紙輸入禁止について ・「全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2017」表彰式について ・集団回収実施団体への感謝状贈呈について ・出前授業実施結果について ④その他
1月11日(木)	新年互礼会	①代表理事挨拶 ②経済産業省製造産業局素材産業課長挨拶
1月18日(木)	北海道地区委員会	①古紙需給動向について ②平成30年1月～6月古紙消費計画について ③古紙梱包機の規格等調査について ④平成30年度古紙共販について
	近畿地区委員会	①古紙需給動向について ②検収委員会報告について ③その他
1月22日(月)	関東地区委員会	①古紙需給動向について ②古紙品質トラブル報告について ③平成30年1月～6月の段ボール・新聞・雑誌の消費計画について ④集団回収実施団体感謝状交付団体推薦について ⑤その他
1月25日(木)	1月度常任理事会	①集団回収実施団体への感謝状贈呈について (関東地区委員会、中・四国地区委員会推薦) ②新潟県阿賀町立三郷小学校への表彰状(集団回収特別活動賞)の贈呈について ③全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2017の表彰作品について ④通常理事会の開催日時及び議案について ⑤家庭紙委員会(仮称)設立の進捗状況及び今後の進め方について ⑥平成30年1月～6月の段ボール・新聞・雑誌の消費計画について ⑦平成29年度第8回業務委員会上程事項について ⑧その他
	第8回業務委員会	①各地区の古紙需給動向について ②中国の古紙輸入規制に関する米国の対応調査について ③平成30年1月～6月の段ボール・新聞・雑誌の消費計画について ④集団回収実施団体への感謝状贈呈について (関東地区委員会、中・四国地区委員会推薦) ⑤今後の業務委員会等の日程について

月 日	会 議 名	主 要 議 題
1月27日(土)	全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2017表彰式 集団回収特別活動表彰式	①紙リサイクルコンテスト表彰状等授与 ②紙リサイクルコンテスト受賞者挨拶 ③集団回収特別活動賞表彰状等授与 ④集団回収特別活動賞受賞者挨拶 ⑤懇親パーティー
1月30日(火)	静岡地区委員会	①最近の古紙の情勢について ②紙リサイクル出前授業のテキスト改訂について ③古紙需給動向について ④平成30年度広報事業計画 ⑤集団回収実施団体への感謝状贈呈について ⑥平成30年度地区事業計画 ⑦その他
2月8日(木)	財務委員会	①平成30年度事業計画(案)について ②平成30年度収支予算(案)について ③その他
	九州地区委員会	①北九州市における事業系古紙リサイクルについての講演会実施報告 ②紙リサイクルコンテスト2017表彰式の開催報告 ③北九州市内小学校の紙リサイクルバスツアー実施報告 ④古紙需給動向について ⑤平成29年度研修会について ⑥平成30年度九州地区行事予定について ⑦その他
2月16日(金)	中部地区委員会 東海分会	①業務委員会議事要旨 ②資源化大作戦報告書 ③全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2017の表彰式の件 ④集団回収実施団体への感謝状贈呈について ⑤出前授業実施結果及び来年度の予定 ⑥甲府市環境リサイクルフェアの報告 ⑦その他
2月19日(月)	近畿地区委員会	①古紙需給動向について ②検収委員会報告 ③その他
2月20日(火)	東北地区委員会	①古紙需給動向について ②業務委員会議事要旨 ③関東地区委員会報告 ④29年度活動報告 ⑤30年度活動計画 ⑥次回例会(日程、場所)開催について
	中部地区委員会北陸分会	①業務委員会議事要旨 ②第6回日中古紙セミナーについて ③米国訪問調査(要約) ④集団回収実施団体への感謝状贈呈について ⑤紙リサイクルコンテストの件 ⑥出前授業の件 ⑦雑がみ呼称の件 ⑧石川環境フェア参加報告 ⑨その他
2月22日(木)	関東地区委員会	①古紙需給動向について ②古紙品質トラブル報告 ③その他 集団回収実施団体感謝状贈呈式
2月23日(金)	2月度常任理事会	①平成30年度事業計画(案)について ②平成30年度収支予算(案)について ③中国輸入古紙規制強化に伴う余剰ミックス古紙等対策について ④平成29年度第9回業務委員会上程事項について ⑤その他
	第9回業務委員会	①各地区の古紙需給動向について ②平成30年度事業計画(案)について ③平成30年度収支予算(案)について ④段ボール古紙ボール荷崩れ防止対策について ⑤今後のスケジュールについて ⑥その他

◇編集後記

本号では、集団回収特別活動表彰式について記事にしました。この集団回収特別活動賞は、昨年度より新たに始めた表彰で、集団回収の目的・意義が素晴らしい団体に贈るものです。今回は集団回収の収益金で図書を購入し、東日本大震災で被災した福島県の小学校に寄贈している新潟県阿賀町立三郷小学校に贈呈いたしました。センターは集団回収の一層の普及、定着化を図るために、今後も特別活動賞の表彰をしていきますので、ご推薦をお願いします。

また、活動報告に平成29年度下半期の紙リサイクル出前授業実施報告を掲載しています。平成29年度は45校での実施となり、前年よりも実施校数が4校増加しました。講師を務めていただいた方々をはじめ、出前授業実施にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。センターとしてもさらなる活動拡大に向け努力を重ねてまいります。
(武石)

地区委員会事務局

地区	郵便番号	所在地	電話番号 FAX番号
北海道	060-0002	札幌市中央区北二条西2丁目 リージェントビル4階	011 (271) 1551 011 (232) 0017
東北	980-6003	仙台市青葉区中央4-6-1 住友生命仙台中央ビル3階 日本紙パルプ商事(株)北日本支社内	022 (225) 3359 022 (261) 4522
関東	104-0042	東京都中央区入船3丁目10番9号 新富町ビル4階	03 (3537) 6822 03 (3537) 6823
静岡	417-0801	富士市大淵2590番1号 静岡県富士工業技術支援センター内	0545 (35) 5270 0545 (35) 5026
中部	450-0002	名古屋市市中村区名駅3丁目25番9号 堀内ビル7階	052 (582) 1836 052 (581) 6943
近畿	541-0052	大阪市中央区安土町1丁目7番13号 トヤマビル7階 日本製紙連合会関西支部内	06 (6262) 6315 06 (6262) 6316
中・四国	799-0492	四国中央市三島紙屋町2番60号 大王製紙(株)内	0896 (23) 9124 0896 (23) 4411
九州	812-0011	福岡市博多区博多駅前4丁目13番27号 グランドハイッツ博多314号	092 (292) 5381 092 (292) 5382

会報

第44巻 第2号
2018年4月16日

発行所

公益財団法人 **古紙再生促進センター**

〒104-0042 東京都中央区入船3丁目10番9号
(新富町ビル4F)

電話 03 (3537) 6822 (代表)

ホームページ <http://www.prpc.or.jp>

発行人 岡村光二

印刷所 日本印刷株式会社

リサイクル適性[®]

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。